

はし たて こ い ろ う
橋立小女郎



「わ、じいちゃん見て！テレビに天橋立がうつってるよ！」

「天橋立はずっと変わらないなあ。」

「へえ、じいちゃんがちっちゃいころからきれいなところだったんだ。」

「今も天橋立にはたくさん観光客が来てるよね。」

「そうそう、とても有名なところなんだ。」

でも、知ってるか？天橋立は昔から何度も切られかけたんだ。

わしが子どものころにも一度だけ、そんな話が出たことがあったなあ…。」

「ええ？！なんで！？」

「ははは、その時の面白い話をしてあげようか。」



わしが子どものころ、昭和22年の新聞に『天橋立を切断する』という記事がのったんだ。

天橋立があることで内海の水の流れが止まってしまって、

イワシや貝がたくさん死んでしまう事が問題になったからだ。

反対した人もいたけれど、魚がとれなくて仕事にならない漁師たちが賛成していた。



わしは^{いま}今まで^{した}親しんできた^{あまのはしだて}天橋立^きが^し切られる^{すこ}って知って少し
さびしかったけど、どこを^{ふう}どんな^き風に^{きょうみ}切るのか^{おも}興味がわいたから、
実際に^{じっさい}切断^{せつだん}する^{ばしょ}場所^いに行^{おも}ってみようと思ったんだ。





^{とう}『父ちゃん～ちょっと松並木まで遊びに行ってくる!』

『おお、いってらっしゃい。^{ひとり}1人で行くのか? ^{こじょうき}小女郎に気をつけろよ。』

『こじょう？なにそれ？』

はしだて こじょう
『橋立小女郎だよ。』

まつなみき みょうじん す
松並木にある明神さんに住んでるキツネのことだ。

むかし ひと ば
ずーっと昔からいる、人を化かすキツネなんだよ。

ひとり ある ば
1人で歩いていると化かされるかもしれないぞ？』



『むかし、父^{とう}ちゃんのじいちゃんは、天橋立^{あまのはしだて}をわたる渡し舟^{わた ふね}の船頭^{せんどう}だったんだが、
よく小女郎^{こじょうらう}に化かされた^ばって聞いたよ。女^{おんな}の子^この姿^{すがた}になって舟^{ふね}に乗^のったり、
天橋立^{あまのはしだて}にいる人^{ひと}に食べ物^{たもの}をねだ^たったりしてイタズラするから、
橋立小女郎^{はしだてこじょうらう}って呼^よばれてるんだと。』







『うっそだー。父^{とう}ちゃん僕^{ぼく}をからかってるんでしょ。』

『小女^{こじょう}郎はひとりで歩^{ある}いてるやつにイタズラをするんだよ。
だから気^きをつけろ。』

『はいはい、いってきまーす。』



『わあ、新聞しんぶんの通りだ。内海うちうみの水がにごってる。

でもキツネなんていないじゃん。

やっぱり父ちゃんとうは僕ぼくをからかってたんだ。』



『すみません…。』

『どうかしましたか？』

『こんにちは、あなたは^{ひとり}1人？』

すみませんが、お腹が^{なか}空いて、た^すおれそうなんです。

よければ何か^{なに}食^たべる^{もの}物をくださいな。』

『ああ、もちろん…。』



『えっ、そのしっぽは何？ キツネのしっぽだ！』

『うわっ、ばれた。』

『まえ こ じょう
お前が小女郎か。』

『どうしておれの名前を知ってるんだ？』

『ねえ、こ じょう なか す
小女郎。お腹が空いているんだろう？
おにぎりをわけてやるからいっしょに食^たべようよ。』





『小女郎。君の名前は僕の父ちゃんから聞いたんだ。』

君はずーっと昔から人を化かしてたって父ちゃんが言ってたよ。

どうしてそんなことするの？』

『遊んでたんだよ。昔は毎日色々なことをして遊んでた。』

人を化かすだけじゃなくって、魚をつかまえたり、松並木を歩いたりしてね。

けど近ごろ、内海はよごれて魚がたくさん死んで、

しまいには天橋立を切ってしまうかなんていう話があるじゃないか。

橋立は生きてるんだ。人間の都合で切ったりしちゃいけない。

おれの大好きな天橋立がなくなってしまうたらすごく悲しいし、くやしいよ。』





^{むかし}『昔はもっときれいで楽しい場所だった。あの天橋立が恋しいなあ…。』
^{たの}^{ばしょ}

^{あまのはしだて}^{こい}
『うーん、どうしたらいいのかな…。そうだ、代わりに、^か僕が^{ほく}大人^{おとな}達^{たち}に
^{はな}そのことを話してあげるよ！』

^{ほんとう}『本当か？ありがとう！うれしいよ！』

『おっちゃん、おばちゃん^き聞いてよ。僕^{ぼく}、小女郎^{こじょう}に会^あったんだ。』

『おお、なんだ。小女郎^{こじょう}ってのは、あの明神^{みょうじん}さん^{こじょう}とここにいるってうわさの小女郎^{こじょう}か？』

『そう。僕^{ぼく}、小女郎^{こじょう}と話^{はな}したんだ。小女郎^{こじょう}は天橋立^{あまのはしだて}を切^きってほしくないって言^いってたんだ。

はしだて　い
橋立^{はしだて}は生^いきてる。

だから僕^{ぼく}たちの都合^{つごう}で姿^{すがた}を変^かえちゃいけないって。

切^きってしまうと聞^きいて小女郎^{こじょう}はとっても悲^{かな}しんでいたよ。

やっぱり天橋立^{あまのはしだて}は切^きっちゃいけないと思うよ、僕^{おも}は。僕^{ぼく}は。』



『はしだて い
“橋立が生きてる” か。』

『たし なが じ かん すがた はしだて
確かに、長い時間をかけてこの姿になった橋立を、
わしらが^か変えてしま^{ほんとう}って本当にいいんだろうか？』

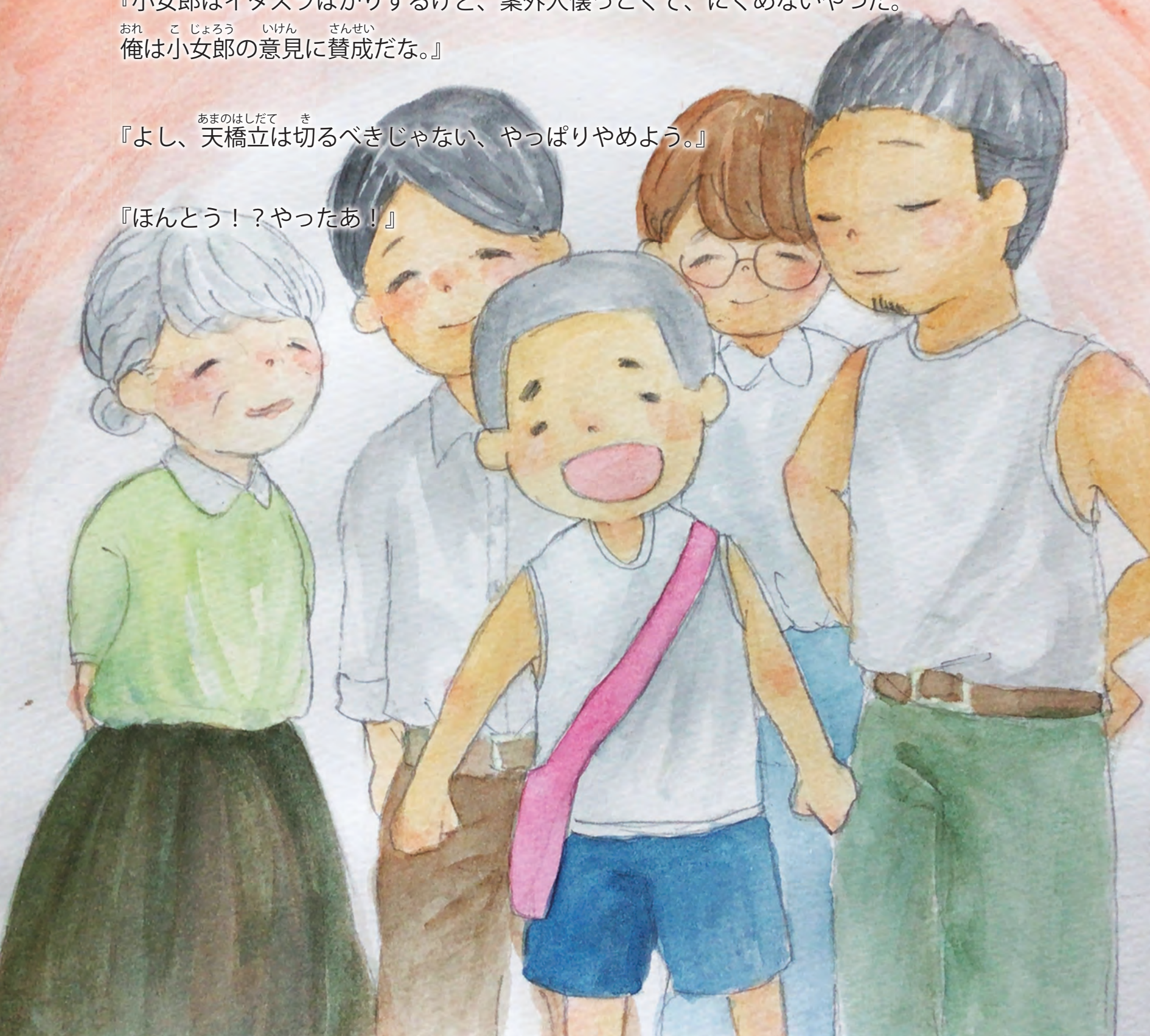


こ じょう
『小女郎はイタズラばかりするけど、案外人懐っこくて、にくめないやつだ。』

おれ こ じょう いけん さんせい
俺は小女郎の意見に賛成だな。』

あまのはしだて き
『よし、天橋立は切るべきじゃない、やっぱりやめよう。』

『ほんとう！？やったあ！』





「これが、わしが子供^{こども}のころにあつた話^{はなし}。」

「すごいね、すてきな話だ。ねえ、それから小女郎^{こじょう}とは会^あってないの？」

「そうだなあ、あれから何度も松並木^{まつなみき}に行^いったけどまだ出^で会^あってない。

でも、橋立^{はしだて}が生^いきてる限^{かぎ}り、きつと小女郎^{こじょう}は松並木^{まつなみき}のどこかであそ^{あそ}んでるよ。

いつかまた出^で会^あえるはず。」

あとがき

この絵本は、宮津に伝わる「橋立小女郎」という民話をもとに、オリジナルのストーリーを考え、制作しました。

天橋立の切断は江戸時代中期から今まで何度も提案されてきたことです。しかし、その議論が起こる度に切断案は、天橋立の景観を守りたいという地元の人々の強い思いによって反対されてきました。私は、自分の住んでいる地域の自然を大切にするという、いつの時代でも通ずる気持ちをこの絵本を読む人にも感じて欲しいと思い、昭和 22 年夏の新聞（宮津市史掲載）に掲載された切断案を元に、ストーリーをつくることにしました。また、「橋立は生きている」という言葉は、当時の天橋立の様子を知る小田さんに取材させていただいた際に話してくださったものです。小田さんの口から自然に出たこの表現に、私は、小田さんの小さな頃から慣れ親しんできた天橋立に対する深い愛着を感じ、文章に引用させていただきました。

この絵本を通して、いたずらっ子で天橋立が大好きな小女郎と、そんな小女郎と自然な形で共生している地域の人々の絆を感じていただけたら嬉しいです。

最後になりますが、橋立小女郎の絵本制作にあたり、一緒に制作を進め、多くの助言をくださった総合地球環境学研究所の三村豊先生、この絵本の核となる言葉をくださった小田彰彦さん、心のこもったご指導をしてくださった宮津天橋高等学校の折戸純先生、またご協力していただいた全ての方々に感謝いたします。

参考文献

- ・『「天橋立学」への招待』、天橋立世界遺産登録可能性検討委員会、2017 年
- ・『丹後の民話』、萬年社京都支社、1981 年
- ・『丹後新風土記』、丹後広域観光キャンペーン協議会、2008 年
- ・『宮津の民話 第二集』、宮津市教育委員会、1980 年
- ・『天橋立秘帖～史実と伝説集～』、丹後伝説研究会、1979 年
- ・『みやづの昔話～北部編～』、宮津市教育委員会、1990 年
- ・『宮津市史 資料編 第 4 巻』、宮津市史編さん委員会、2001 年

橋立小女郎

2022 年 3 月 30 日 第 1 刷

文・絵 伴海 遥花
(京都府立宮津天橋高等学校宮津学舎 1 期生)
題字 橋根 琉伊
(京都府立宮津天橋高等学校宮津学舎 1 期生)
発行 総合地球環境学研究所
制作協力 小田 彰彦 (宮津市在住)
森津 幸子 (宮津市在住)
協力 京都府立宮津天橋高等学校宮津学舎
印刷・DTP 株式会社橋立印刷所

©Haruka Bankai, 2022 Printed in Japan

NDC913 25×25 24P ISBN 978-4-906888-94-8

本絵本は、京都府立宮津天橋高等学校「総合的な探究の時間」(2 年次)の探究学習および総合地球環境学研究所・研究基盤国際センター・コミュニケーション部門(部門長:阿部健一)の「超学際時代の成果発信の研究開発」(担当:三村豊)の一環として作成されたものです。

本絵本は、クリエイティブ・コモンズ表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際
(CC BY-NC-SA 4.0) のライセンスの下で自由に利用できます。





ISBN 978-4-906888-94-8